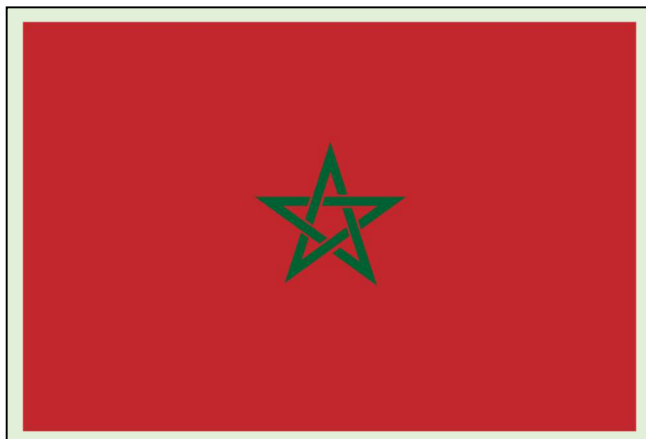


JICA 海外協力隊 赴任前留意事項

モロッコ王国



※本資料に記載の情報は、作成日現在のものであり、その後状況が変化している場合があります。記載内容については正確を期していますが、万が一誤りがあった場合には JICA は責任を負いかねますのでご了承ください。

※本資料は JICA 海外協力隊を対象としたものであり、その他の方には該当しない情報も含まれている可能性があります。

目次

1. 赴任時の携行荷物について
2. 別送荷物について
 - (1) アナカン・郵送等の利用について
 - (2) 通関情報について
3. 通信状況について
 - (1) パソコンの普及状況
 - (2) 携帯電話の普及状況
4. 現金の持ち込み等について
 - (1) 現金持込にかかる注意
 - (2) 両替状況
 - (3) 赴任時に用意することが望ましい金額について
5. 治安状況について（JICAの安全対策については、隊員ハンドブックを参照）
6. 交通事情について
7. 医療事情について
8. 任国での運転について
9. お問い合わせ
10. その他

1. 赴任時の携行荷物について

【赴任時に必ず持参するもの】

- ※ JICA 海外協力隊ハンドブックの「3-5 出発時の注意事項」を必ず確認の上、ハンドブックに記載されている「手荷物として持参するもの」に加えて、以下を持参下さい。
 - JICA 海外協力隊ハンドブック
 - 警察証明書（犯罪経歴証明書）・・公用旅券取得後に各自で取得
 - 受入確認に関する書面の写し・・出発前に事務局より送付
 - 常用薬（あれば）、体温計
- ※ 2024年3月現在、モロッコへの入国に際する新型コロナウイルスに関連する制限はありませんが、接種済みの方については、任国外旅行等の渡航先で提示を求められる可能性もありますので、ワクチン接種証明書（英文）の持参を推奨します。

【注意、参考事項】

- 電気製品を含め生活に必要なものは、質を問わなければ、現地で購入可能です。
- 常用している薬がある場合は持参し、家庭用常備薬（感冒薬、胃腸薬、整腸剤、点眼薬、かゆみ止め軟膏など）も必要に応じ持参されることをお勧めします。
- モロッコの電源プラグはCタイプまたはE(SE)タイプで、電圧は220Vです。
- 預け荷物は紛失や到着が遅れる場合がありますので、貴重品や電子機器、1日分の着替え等は、機内持込の手荷物に入れて下さい。
- 赴任時に携行する荷物は、モロッコの空港到着時に税関の荷物検査で開けられることがあります。
- 携行する荷物については、通常無税で通関できます。但し、新品のパソコン、電化製品や大量の未使用の衣服等は商品とみなされて課税の対象となることもありますので、箱やビニールから出して使用済みであることが判るようにして下さい。
- 到着時はJICA事務所スタッフが空港ビルの外で待機しています。入国審査、通関時に各自で入国理由や荷物の中身等について説明できるように備えて下さい。
- 空港内で待機しているポーターは有料ですので、依頼する場合は各自でチップ（荷物一つ当たり10DH、または1米ドル程度）を渡して下さい。なお、自身でカートを使用する場合は無料です。

2. 別送荷物について

（1）アナカン・郵送等の利用について

荷物の送付方法としては、郵便小包（EMS便・航空便・船便）、国際宅急便（DHL等）とアナカン（別送品）があり、別送ではありませんが、搭乗する航空便の超過預け荷物（Excess Baggage）として送る方法もあります。

郵便小包（EMS 便、航空便、船便）

- ▶ 発送から到着まで所要日数は航空便で 4～15 日、船便で 3～4 ヶ月ほどです（減便や通関手続きの遅れ等による遅延の可能性もあります）。
- ▶ 船便の場合、輸送途中での破損のリスクがあるため、頑丈なダンボールを使用して送付して下さい。
- ▶ 送付先を事務所とする場合、事務所宛の送付物と区別するため、宛名には隊員個人名を必ず記載して下さい。また、隊員名のみで、JICA 事務所の記載がないと、事務所による引き取りができませんので、送付先は記入例のとおり「JICA モロッコ事務所 気付 隊員本人宛」として下さい。

送付先（記入例）

Mr. / Ms. * * * * * * * * * * * * （ローマ字で隊員個人名を明記）
A/S JICA Morocco Office
N° 74, Rue Oum Errabiaa, Agdal, 10080 Rabat, Morocco
（電話番号を記載する必要がある場合） +212-(0)537-276595

【受取に関する注意事項】

- ▶ 小包等の受取りの際には、内容物や価格に応じた税金・手数料・倉庫保管料が徴収されます。当地郵便局での保管期間は 15 日間となり、引き取りがない場合は日本への返送または処分されることもあります。また、隊員はモロッコ到着後 4 週間で任地に配属となりますので、タイミングを考慮して発送して下さい。
- ▶ 小包の配送状況については、日本郵便の郵便追跡サービスのサイトで調べてください。
- ▶ JICA 事務所では、ラバトの郵便局から隊員宛荷物の到着通知が届き次第、引き取りに行き、事務所で一時保管しますが、任地までの運搬の便宜は図っていませんのでご自身で運んで下さい。
- ▶ 任地の自宅や職場宛てに送ってもらい、受け取ることも可能です。

超過預け荷物（Excess Baggage）

- ▶ 別送荷物ではありませんが、搭乗する航空便への超過預け荷物として持参する方法もありますので、航空会社か担当の旅行会社に料金を確認して、別送する場合との比較検討を行うことをお勧めします。

アナカン／別送品（Unaccompanied Baggage）

- ▶ 受領までの手続きが下記のとおり煩雑であり、多大な労力と時間を要しますので、

アナカンの利用は避けるようにお願いします。

- 運送状コピー、JICA からの引取りレターや受取人のパスポートコピーなどの書類を事前に通関業者に提出し、その上でカサブランカ空港の貨物地区まで本人が立ち会いのために出向かざるを得ないケースがありました。
- 送付先を JICA 事務所にしていただけにもかかわらず、到着後に通関業者からの連絡がなく、引き取りの際には関税のほかに多額の保管料まで請求されました。荷物は日本から 1 週間ほどで到着しましたが、到着から引き取りまで 1 か月半の期間を要しました。

(2) 通関情報について

税金

- 通常、送付物の送付状に記入されている内容物や価格に応じて課税され、基本的に価格が 500DH (約 7,400 円) 以下の小包については、免税となります。
- 内容物の価格が 500DH 以上と記載されている小包については、小包受け取り時に高額な関税等 (内容物の価格以上の金額) を徴収される可能性があります。過去に送付状の記載価格が高額で、関税を徴収されたケースがありますので、あまり高額な品物を送付することは避けた方が無難です。

医薬品の送付について

- モロッコでは麻薬など薬物の取り締まりが厳しく行われているため、荷物の中に薬を入れる場合は「英語または仏語の薬の説明」を添付して下さい。引取がスムーズにできない場合、追加の保管料や手数料が発生する場合があります。
- 小包は税関にて開封されることもあります。

内容物の価格について

- 紛失した場合の補償のために高額な価格を記入する隊員が見受けられますが、上述のとおり関税を徴収される可能性もあり、内容物によっては 200%課税される場合がありますので、妥当な価格を記載して下さい。

3. 通信状況について

(1) パソコンの普及状況

現地で購入可能な PC

- HP、Lenovo や Asus 等のパソコンや周辺機器は当地で購入可能で、安い機種であれば 8~12 万円程度で購入できますが、日本よりも割高であるため、日本から PC (100~240V 対応、C タイプの電源プラグ) を持参することをお勧めします。

インターネット環境

- モロッコの多くの地域ではインターネットの利用が可能です。回線の種類としては、ADSL か、携帯電話網を利用した 4G (GPRS、EDGE) が主となります。光回線は都市部の一部地域において利用が可能です。
- 契約にはいくつかのプランがあり、最低利用期間の縛りがある場合もありますので、契約前に内容や条件の確認が必要です。
- SNS やメールの規制はなく、問題なく利用可能です。

(2) 携帯電話の普及状況

- 携帯電話はかなり普及しており、プリペイド式が主流となります。主要な携帯電話会社は Maroc Telecom、inwi、Orange の 3 社で、地方の山岳部などでは電波が届かない場所もあります。隊員には到着時に事務所から携帯電話を貸し出します。

4. 現金の持ち込み等について

(1) 現金持込にかかる注意

- 外貨の持ち込み・持ち出しについては、相当の注意が必要であり、入国時に申告していないと出国時に没収されることがあります。モロッコ国内の銀行口座に外貨を預け入れる際に入国時の税関申告書が必要となることもあり、10 万 DH (約 148 万円) 相当以上の外貨現金を持ち込む場合、税関にて申告を行って下さい。
- 盗難のリスクもあるので多額な外貨現金の持ち込みは避けて下さい。
- 紙幣が破れていたりや落書きがあると銀行で受け取りを拒否されることもありますので、新札を持参することをお勧めします。

(2) 両替状況

- 外貨紙幣 (米ドル・ユーロ) については大都市では比較的簡単に両替できますが、トラベラーズチェックについては換金できる場所が非常に限られるため、お勧めしません。
- 外貨の国外持ち出しが厳しく制限されているため、一度現地通貨に両替したものは 1 ヶ月以内の両替精算書が無ければ外貨への再両替はできません。

クレジットカード

- ホテル、レストランやスーパーマーケットなどではクレジットカードによる支払いが可能です。スキミングや不正利用のリスクもありますので、細心の注意 (カードを放置しない、店員に預けない、金額の確認等) が必要です。
- 銀行の ATM でクレジットカード (Visa、Master など) によるキャッシング (金利手

数料や当地銀行の手数料が発生)も可能です。

- ATM利用時、まれにカードが機械に吸い込まれて出てこないこともありますので、営業時間内に引き出すことをお勧めします。

(3) 赴任時に用意することが望ましい金額について

- モロッコでは都市と地方で生活環境の違いがあり、またそれぞれの生活様式も異なることから、最終的にはご自身で判断して頂くこととなりますが、当面の資金(生活費、住居の保証金等)として **10~15万円程度の現金**が必要となります。
- モロッコ到着後の約2週間後に赴任当初の現地生活費(1~3ヶ月)、任地配属前に家賃2ヶ月分(家賃1ヶ月と不動産手数料)相当を事務所から隊員の銀行口座に振り込みますが、保証金(家賃1ヶ月)の支払いが発生します。
- なお、住居の保証金は隊員の自己負担となりますが、退去時に問題がなければ全額返金(最終月の家賃に充当)されます。

5. 治安状況について (JICAの安全対策は、「海外安全対策ハンドブック」を参照)

治安状況(犯罪被害)

モロッコの治安は比較的安定しており、銃器を使用した強盗などの凶悪犯罪は多くありませんが、スリ、ひったくり、空き巣等の一般犯罪や、イスラム過激派によるテロ未遂事件、政府に対するデモ等が発生しています。モロッコ滞在をより安全で快適なものとするために、このような犯罪に遭遇するリスクを最少化するための予防策を講じるとともに、万一遭遇した場合にも、被害を最小限に抑えるための適切な対処法を身に着けることが大切になります。

隊員の犯罪被害については、毎年スリ、ひったくりや置き引きの被害が出ており、過去にナイフを突きつけられて財布を盗られたといった被害もありました。事務所としても皆さんの安全を確保するべく必要な対策を講じますが、皆さんが様々な安全対策措置を遵守すること、皆さん自身が「自分の身は自分で守る」意識を持っていることが前提となります。一人一人が意識して犯罪、テロの被害者にならないよう日頃から情報収集、行動をとるよう心がけて下さい。

安全上の注意事項

- **公用旅券の管理を徹底**し、携行時はパスポートホルダー等を使用して下さい。
- **日没前・日没後の都市間移動は禁止**(ラバト市内とラバト=サレ国際空港間の移動を除く)。
- 慣れた道でも、早朝や深夜など人氣が少なくなれば、犯罪に遭うリスクが高くなりますので、**日没後**(人通りが多い地区や通りを除く)**や人通りの少ない日曜・祝日**

は徒歩で移動せず、タクシーを利用して下さい。

- 外出や移動の際は、身分証明書（認証を受けた旅券写し、または、滞在許可証）を常時携帯して下さい。
- 任地を離れる時は、3 営業日前までに国内移動届をメールにて事務所に提出して下さい。
- 緊急連絡用の通信手段として、到着時に携帯電話（GSM 携帯、Maroc Telecom の SIM カード）を貸与しますので、常にオンの状態で携帯し、充電の残量にも注意して下さい。
- 赴任から 3 ヶ月間は任地での活動及び生活の基盤づくり、また安全の観点から当地の交通事情に慣れていないこともあり、私事目的の国内移動は控えていただくようお願いしています。
- メディナ（旧市街）やバス・列車内での犯罪発生率が高いので、周囲への警戒、荷物から目を離さない等十分な注意が必要です。カメラをぶら下げる等、観光客だと一見して分かるような恰好や行動は可能な限り避けて下さい。
- 不特定多数が集まる場所、欧米権益施設へのアクセスは極力少なくし、デモや集会等には近づかないで下さい。政治・宗教上の批判的発言・議論は厳に慎んで下さい。
- モロッコでは大麻等が多く生産されており、麻薬中毒者による殺人、傷害事件も発生しています。当国では、麻薬の製造、運搬、売買、所持、使用は厳罰に処されます。旅行者が麻薬の運搬、受渡に利用される可能性もありますので、たとえ一時的であっても他人の荷物を預かたりしない、興味本位で麻薬・覚せい剤・危険ドラッグ等（銘柄不明の煙草や強壮剤等にも）に手を出さないで下さい。
- 女性に対する嫌がらせ、つきまといのようなセクシャル・ハラスメント、ストーカー行為などの被害が報告されており、服装、態度や物腰など男性の興味を刺激しないよう注意し、夜間の女性の一人（二人）歩きは極力避けて下さい。
- デモの予告などがあった場合は、関係者へ緊急連絡をしますが、各人におかれては不用意に人ごみに近づかないなどの安全対策をお願いします。また、滞在中にデモなどに遭遇した場合、速やかにその場を離れ、安全を確保してから事務所までご一報下さい。

6. 交通事情について

交通事情（交通事故）

モロッコの道路交通マナーは極めて悪く、車優先の社会でもあります。年間の交通事故による死亡者数は3,000～4,000人ほどで、人口や事故件数に比して大きな数字です。事故の原因としては、スピードの出し過ぎ、禁止区域での進路変更、一時停止や信号無視等があげられます。当地では、信号機が故障していることがあり、全て点灯または消灯してい

る場合もあり、交通量の少ない交差点や夜間は信号を無視する車（歩行者）が多いので注意が必要です。路面の状態については、主要道路は地方部まで舗装されていますが、アスファルトの劣化による凸凹も多く見られます。

年間の交通事故件数、死亡者数、負傷者数（上段2022年、中段2021年、下段2020年）

	人口(万人)	事故件数	死亡者数	負傷者数
モロッコ (NARSA統計)	3,691	113,740	3,201	149,442
		114,626	3,685	165,154
		84,585	3,005	120,343
日本 (警察庁統計)	12,583	301,193	2,610	356,419
		305,196	2,636	362,131
		309,178	2,839	369,476

※ NARSA : National Road Safety Agency (Agence National de la Sécurité Routière)

移動上の注意事項

- 長距離移動で公共交通機関を利用する場合は、**CTM及びSUPRATOIRS（バス）、ONCF（鉄道）**を利用して下さい。これらの移動手段がない場合には、グランタクシーの利用が可能です（但し、シートベルトのある車両を利用し、100kmを越えない移動に限ります）。民営バス及びローカルのミニバスは利用しないで下さい。
- モロッコには、市内だけを走る小型のプチタクシーと、都市間を走る中型のグランタクシーの2種類のタクシーがあります。グランタクシーは主に乗り合いで、定員の6名が集まるまでは出発せず、一般的に運転が乱暴です。
- 高速道路を含め、道路に照明が全く設置されていない区間も多く、交通事故も多いため、**夜間・早朝（4月1日から9月30日は21時～06時、10月1日から3月31日は20時～07時）の都市間の移動を禁止**しています（鉄道での移動も同様です）。
- 冬期のアトラス山脈を越える移動は、路面凍結によるスリップ事故が起きやすいため、出来るだけ避けるようにして下さい。（バスが谷に転落し42名が亡くなるという事故も発生しました）
- モロッコにおいては、歩行者ではなく、車両優先の社会となります。このため、車両やオートバイの運転手は、歩行者が道路を横断中であっても歩行者の方が車両を避けるものとして、スピードを落とすことなく進入してきますので、細心の注意を払う必要があります。
- ラマダン期間中（特に夕方）、家路を急ぐあまりスピードの出し過ぎ、注意力の散漫等もあり、交通事故が多発する傾向にあります。

7. 医療事情について

一般的な医療事情と疾病に関して

- モロッコの医療事情は大都市と地方部では大きく異なります。大都市には国公立病院や大学付属病院をはじめ、24時間救急対応の民間の大病院もあり、CTやMRI等の医療設備も整っていますが、地方部においては公立の医療機関しかない地域もあり、医療機器も十分に整備されているとはいえ、まだまだ厳しい状況にあります。都市部で医療機関を受診する場合、民間の病院やクリニックの利用をお勧めします。
- モロッコでの歯科治療も可能ですが、治療費が高額であることや言葉の問題等もあることから、可能な限り日本で治療を終えておくことをお勧めします。
- 薬局は市内に多くあり、処方箋なしで購入できる医薬品もありますが、漢方薬や湿布薬のようなものはありませんので、必要な場合は持参することをお勧めします。
- 隊員に多い疾患としては、皮膚科や消化器科、歯科があげられます。
- 服用中の薬があれば、英語かフランス語での名称を調べておくといいです。

予防接種について

- モロッコに派遣される場合、派遣前に日本でA型肝炎、B型肝炎、狂犬病、破傷風などのワクチン接種を行います。
- 初回接種から約6ヶ月後にB型肝炎の3回目の接種をモロッコで実施します。狂犬病については、事前にワクチンを接種していても、狂犬病の疑いのある動物に咬まれた場合は追加のワクチン接種が必要となります。
- インフルエンザについては、毎年11～12月頃に希望者に対してワクチン接種を行います。
- モロッコ国内における腸チフスワクチンの流通が不安定のため、腸チフスワクチンの接種を希望する方は渡航前に日本国内で接種してください。

出発前のマラリア予防薬内服の推奨と購入について

- 予防薬の内服は推奨しません。
- マラリア予防薬はモロッコの薬局で購入可能ですが、時期やタイミングによっては購入できない場合があります。

8. 任国での運転について

当国では隊員の自動車（レンタカー）の運転、バイク（レンタバイク）運転・同乗、バイクタクシー（二輪・三輪）の利用、電動キックボードの使用、大～中都市での自転車の使用を禁止しています。

9. お問い合わせ

任国での活動に関する質問は、以下のボランティア班共有アドレス宛にメールでお問い合わせ下さい。

※長期隊員の方は、お問い合わせは派遣前訓練が開始してから行って下さい。

※活動に関わる内容以外の質問はお控え下さい。

JICA モロッコ事務所 ボランティア班共有アドレス：jicamo-jvsv@jica.go.jp

10. その他

住居の選定と契約について（JICA 負担の場合）

- 住居は原則として先方政府からの提供となりますが、提供が難しい場合は、それに準じた住居を（限度額の範囲で）JICA 費用負担により提供します。
- JICA 負担の場合、任地到着後に配属先または事務所指定の不動産会社が提示する候補物件から1~2件を選定し、事務所の安全管理担当者による安全確認等の後に、隊員が家主または不動産業者と契約を交わします。任地到着から住居契約までは7日~10日ほどで、その間は任地のホテルでの滞在となります。
- モロッコでの住居は、集合住宅（アパート）の一室（家具付き）を賃貸する形態が一般的です。

銀行口座の開設について

- モロッコに到着後、外貨交換可能口座(Compte Etranger en Dirham Convertible)を開設します。この口座は、外貨現金での入金、外貨建ての振込入金や現地通貨の出金は可能ですが、現地通貨での入金や普通口座からの振込入金はできません。
- 開設時にパスポート、100~300 DH（約1,500~4,500円）相当の外貨（米ドル・ユーロの紙幣。硬貨は不可、破損や落書きのある紙幣は拒否される可能性があります）、日本の（連絡先）住所が英文で記載されたもの（ない場合は、パスポートの緊急連絡先ページの写しを銀行に提出しますので、英文で記載）を用意して下さい。
- 銀行のキャッシュカードはMaster か Visa のデビットカードが付随しており（モロッコ国内での利用のみ）、カードの種類により1日、1ヶ月の利用限度額や年間手数料（55~275DH）も異なります。カード作成の手数料は口座開設時に引き落としされますので、同手数料以上の金額（上述の外貨）を入金して下さい。
- キャッシュカードの作成手数料の他、毎月の口座維持手数料やネットバンキング等に係る手数料がかかります。
- 銀行に登録するメールアドレスは、Gmail を推奨します（Yahoo のメールアドレスで銀行からのメールが届かないといったことがありました）。

以上